



プライベートバンカー（PB）資格

新スタディガイド NewStudyGuide

【2023年2月版】

（2023年4月以降の試験に対応）



公益社団法人
日本証券アナリスト協会
The Securities Analysts Association of Japan

本冊子の内容は予告なく変更することがあります。最新版は協会ウェブサイトに掲載しております。



本著作物の著作権は、公益社団法人 日本証券アナリスト協会に属します。本著作権の全部または一部を、許可なく印刷、複写、転載、磁気もしくは光記録媒体への入力等、その他方法の如何を問わず、これを複製することを禁じます。

スタディガイドについての照会先
PB教育担当
E-mail:pb@saa.or.jp

プライベートバンカー（PB）資格 スタディガイド

【 目 次 】

1.プライベートバンキング教育プログラム	1～3
(1) PB 教育プログラムとは	1
(2) PB 教育プログラムの特色	1
(3) 継続学習の重要性	3
2.プライベートバンカー資格	4～7
(1) どの資格から受験するか	4
(2) 各資格の紹介	4
(3) 他の資格との違い	5
(4) プライマリーPB 試験単位合格者の対外的な表記	6
(表) PB 資格試験制度の概要	7
3.資格試験制度の注意点	8～9
(1) 受験の申込み	8
(2) 合否判定	8
(3) 資格認定に要する実務経験	9
(4) 資格認定証	9
4.使用テキスト、学習教材等	10～13
(1) メインテキスト	10
(2) サブテキスト	11
(3) おすすめ学習動画、ウェブサイト、推奨図書	11
5.メインテキストの構成と主な学習内容	14～18
(1) 『新プライベートバンキング』（第1～3分冊）	14
(2) 『顧客のための総合提案書の作り方』	17
6.おわりに	19
(1) 職業倫理の重要性	19
(2) より良いプライベートバンカーを目指して	19

1. プライベートバンキング教育プログラム

(1) PB 教育プログラムとは

プライベートバンカーとは、主としてオーナー経営者を顧客と想定し、顧客の事業・資産承継や相続を支援するために、包括的な金融サービスを提案、実行支援するプロフェッショナルのことです。

近年、銀行・証券などの金融機関においては、ウェルスマネジメントのニーズが高まっており、顧客に対してコンサルティングやアドバイスを提供する専門性の高い人材（プライベートバンカー）を育成するプログラムの必要性が高まっています。

当協会は、金融・投資のプロフェッショナルである CMA（日本証券アナリスト協会認定アナリスト）を育成してきた実績と公益社団法人という中立公正な立場から、2013 年にプライベートバンカーとして活躍するために必要な知識を体系化して学べる教育プログラムを開発し、プライベートバンカー (PB) 資格試験をスタートしました (2013 年 6 月よりプライマリー PB、シニア PB の試験を実施しています)。

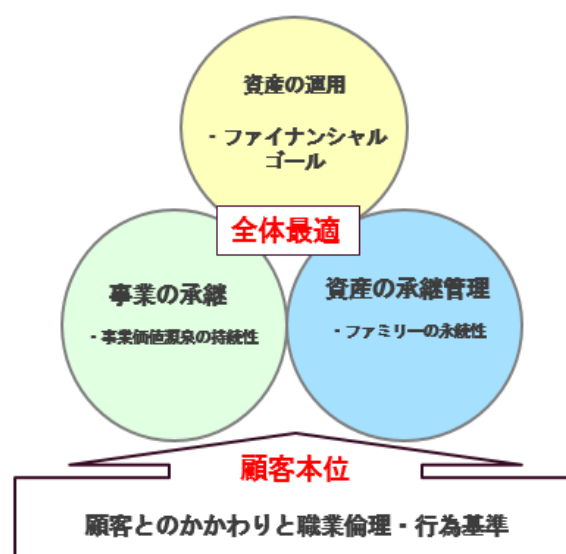
その後、制度発足 10 周年を控えて当協会では教育プログラムの大幅な改定を進め、2023 年 1 月にはプライマリー PB 試験のテキストを一新し、それに基づく試験を 2023 年 4 月から実施する予定です。改定は、ファミリーとビジネスの両面から顧客の課題を解決できることがプライベートバンカーに必要とされる特徴的なスキルであることを意識しつつ、プライベートバンキング業務を巡る環境の変化も踏まえて行われました。

わが国における、高齢化・長寿化が進む中、オーナー経営者の事業承継や相続に対するコンサルティングのニーズは確実に増加しています。このような社会的要請に応えていくために、幅広い知識を持ち、それを使った具体的対応策（総合提案書）を提示し、顧客とともに歩んでいくプライベートバンカー (PB) 資格を持ったプロフェッショナルが社会において大いに活躍し、その認知度を高めていくことが期待されます。

(2) PB 教育プログラムの特色

PB 教育プログラムにおいては、法人業務と個人業務という両者を兼ね備えた総合的な知識を持った人材の育成を目指しており、さらに弁護士や税理士などの専門家とチームを組んで業務を遂行することも前提として考えています。

このため、PB 教育プログラムでは「顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準」、「資産の運用」、「資産の承継・管理」、「事業の承継」という 4 つの学習項目を定めています。このプログラムでは、顧客に対して全体最適アプローチによる問題解決を提供することを学習するとともに、継続教育を通じて、実務に則した実践的なケーススタディを豊富に取り入れ、常に最新のスキルを取得できるような仕組みを構築しています。



＜PB 教育プログラム 4つの特色＞

1. 顧客本位の観点から、全体最適アプローチで顧客の問題を解決
・PB は4つの学習項目からなっており、内容が多様かつ広範囲にわたる。
2. 実務に即した実践的なケーススタディが豊富
・シニア PB の筆記試験で義務付けている「総合提案書の作成」に代表されるように、PB は極めて実践的な内容である。
3. 常に最新のスキルを取得できるよう、継続教育プログラムを提供
・PB は資格試験と継続教育を資格の両輪としており、資格取得後の継続教育による知識のブラッシュアップを重視している。
4. 職業倫理を重視
・PB はプライベートバンカーに対する信任を維持する上での職業倫理を格別重視している。

＜4つの学習項目＞

学 習 項 目	学 習 内 容
1 顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準 ・顧客とのかかわり ・FB (ファミリービジネス) の特徴とガバナンス ・職業倫理・行為基準	オーナー経営者を中心とする PB 顧客とのかかわりや、PB 業務を実践する上で不可欠な職業倫理・行為基準を学びます。
2 資産の運用 ・財産状況の把握 ・金融資産の運用 ・不動産の運用	オーナー経営者などのファミリーミッションを達成するために必要となる資産の運用について、主に、金融資産と不動産の運用に関する知識を学びます。
3 資産の承継・管理 ・相続の法務 ・相続の税務 ・納税資金対策 ・信託を活用した資産の管理と成年後見制度	オーナー経営者などのファミリーが保有する資産を、次世代に円滑に承継するために必要となる資産の管理・承継に関する知識を学びます。
4 事業の承継 ・事業価値源泉の把握と企業価値評価 ・事業の承継（親族内） ・事業の承継（親族外）	オーナー経営者などのファミリーの収益の源泉であるビジネスについて、事業価値源泉の把握、企業価値評価のための知識、次世代への事業の承継に関する知識を学びます。

(3) 継続学習の重要性

PB 資格を取得した後は、継続学習が極めて重要です。PB 業務は学習範囲が広く、法令を初めとする規制や取引手法も多種多様であり、日々変化が生じます。これらを遅れることなくフォローし、PB としての技能を高めていくことは必要不可欠です。

従って、この教育プログラムにおいては、継続学習を資格試験と並ぶ 2 本の柱の一つとしており、実務に則したセミナーや動画・要旨録を継続学習のメニューとして提供しています。資格取得後 2 年という資格更新期間を設け、その中での学習の成果をポイント制で把握する仕組みにしていますので、自らを高めプライベートバンカーとして成長し、顧客の信頼を確保するためのステップとして活用して下さい。

詳しくは、PB 資格取得後に協会よりお送りする「プライベートバンカー (PB) 資格 継続教育ガイド」を参照して下さい。当協会ウェブサイトにも掲載しています。

2. プライベートバンカー資格

(1) どの資格を受験するか

プライベートバンカー（PB）資格試験は、2つのレベルの資格試験を用意しています。以下に述べる各資格のレベル・職能域などを参考にして、自分の知識レベルや経験、職場での役割に見合った資格を選択して下さい。

例えば、PB 業務等に従事し一定の基礎知識がある方で、比較的複雑かつ広範囲な顧客の要求にも対応することが必要な方は、プライマリーPB から受験されるのが実践的です。

また、すでに PB 業務に関する知識を豊富に有し、総合提案書の作成などの具体的対応策を提示する必要のある方で、プライマリーPB、または CMA を取得されている方は、是非シニア PB に挑戦してみてください。

(2) 各資格の紹介

① プライマリーPB

～PB 業務の中核的な役割を果たす方のための資格です～

レベル： 資産の運用に関する基本知識を実務面から問うとともに、資産の承継・管理、事業の承継の理解が不可欠です。実務に要する基本知識も問われます。顧客とのかかわり、職業倫理・行為基準に関する知識も重要です。

『新プライベートバンキング』第1～3分冊の内容全般の知識が要求されます。このテキストは、試験単位と3つの分冊がそれぞれ対応する構成となっています。

受験対象者： 誰でも受験することができますが、ある程度この方面に基本的な知識を持った方でないと難しいと思われます。金融機関でいえば、プライベートバンキング部門の担当の方、あるいは営業店である程度セールス経験があり、それなりの学習をしている方、またいずれPB の分野で活躍することを目指す方を想定しています。FP2 級取得者が次に目指す実践的な資格としても最適です。

＜学習項目と新プライマリーPB 試験単位の対応関係＞

試験単位	学習項目	内容
I 単位	顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準	顧客とのかかわり
		FB(ファミリービジネス)の特徴とガバナンス 職業倫理・行為基準
	資産の運用	財産状況の把握 金融資産の運用
II 単位	資産の運用	不動産の運用
	資産の承継・管理	相続の法務・税務、納税資金対策
		信託を活用した資産の管理と成年後見制度
III 単位	事業の承継	事業価値源泉の把握と企業価値評価
		事業の承継(親族内)/(親族外)

② シニア PB

～専門家としての役割を担う方のための最上位資格です～

レベル： プライベートバンカーとして全体最適な提案力が問われます。筆記試験の内容は「総合提案書」の作成です。協会ウェブサイトに掲載されている「総合提案書作成ガイド」を熟読し、顧客の心に響く「総合提案書」とはどういったものかを完全に理解してください。協会が開催する「PB セミナー」、「PB スクール」に参加するのも効率のよい学習方法です。

受験対象者： 受験できるのは、プライマリーPB、または CMA です。なお、シニア PB 資格を取得するには 2 年以上の実務経験が必要ですが、この資格はプライベートバンカー資格のいわば柱であり PB 業務に本格的に携わる方には必須の資格です。金融機関にあっては、プライベートバンキング部門の管理職ないしリーダーとして活躍することを想定しています。また、税理士や公認会計士あるいは FP の方々が実践的なノウハウを磨いていくのにも効果的でしょう。プライマリーPB を取得された方は是非挑戦してみてください。FP1 級取得者が次に目指す実践的な資格としても最適です。

プライベートバンカー資格試験は2段階

基本



プライマリーPB

PB 業務の中核的な役割を果たす方のための資格

上級



シニアPB

専門家としての役割を担う方のための最上位資格

(3) 他の資格との違い

PB 資格とよく比較される資格に FP 資格があります。両者の違いは、FP は主に一般の家計を対象にパーソナルな金融知識の習得を目的としているのに対し、PB はオーナー経営者を顧客対象に専門的なアドバイスができるように的を絞った教育プログラムであるということです。PB は履修する科目同士を結びつけて総合的な問題解決を目指す、全体最適を求めていますので、よりビジネスに直結した内容となっています。

対象とする業務内容も FP では家計診断、住宅ローン相談、老後資金準備など顧客のフロー資金での生涯収支をみるライフプランに重点を置くのに対して、PB では顧客個人の生涯収支のみにとどまらず、ファミリーまで含めた資産の運用や承継・管理、事業の承継など多世代にわたってのアドバイスやコンサルティングを目的としています。このため PB では、全体最適を示す総合提案書の作成が最終目標となっています。

試験の難易度のイメージとしては、概ね以下ようになります。

難易度	FP 資格	PB 資格
 高い		シニア PB
	FP1 級	
		プライマリーPB
	FP2 級	

(4) プライマリーPB 試験単位合格者の対外的な表記

プライマリーPB 資格を取得するには、試験の3単位に合格することが条件となっていますが、2023年4月以降に実施する試験で各単位に合格された方については、その事実を名刺等に表記できます。

- ・特定の単位だけ学習したい
- ・すべての単位を取得するのは荷が重い、馴染みのある単位から学習を始めてみたい

このような場合に、特定の単位に合格すれば、その分野を修了したことを示すことができますので、ご自身の業務経験、キャリアパスに合わせて、受験する単位を選択し学習を進めてみてください。なお、この制度の活用にあたっては、継続教育の受講や更新料は不要です。

○1単位合格者

第Ⅰ単位合格者の表記例

日本証券アナリスト協会 PB「資産運用」分野修了™

○複数単位合格者(2分野まで併記可能)

第Ⅱ単位および第Ⅲ単位合格者の表記例

日本証券アナリスト協会 PB「資産承継」「事業承継」分野修了™

(注) 表記についての詳細は、こちらの URL を参照ください。 https://www.saa.or.jp/pb/pdf/ppb_hyoki.pdf

2023年3月までに実施されたプライマリーPB試験の試験単位に合格しても、その単位に関しては単位合格者の表記は使用できません。

PB 資格試験制度の概要

プライベートバンカー(PB)資格試験制度

		
レベル	基本	上級
受験資格	誰でも受験可能	①プライマリーPB ②CMA
試験方式	コンピュータ試験（随時実施） （4肢択一式、単位毎受験可）	筆記試験（年2回実施） （出題後、約1カ月以内に総合提案書を提出する）
試験内容	第1単位： ・顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準 ・財産状況の把握、金融資産の運用 第2単位： ・不動産の運用 ・相続の法務・税務 ・納税資金対策 ・信託を活用した資産の管理と成年後見制度 第3単位： ・企業価値評価 ・事業の承継（親族内／親族外）	総合提案書の作成 （A4、15ページ以内）
テキスト	『新プライベートバンキング』 第1～3分冊	『顧客のための総合提案書の作り方』
サブテキスト	「プライマリーPB試験 （CBT）サンプル問題集」	「総合提案書作成ガイド」
問題数	各単位 40 問	—
試験時間	各単位 100 分	—
合格最低点	公表していません	
受験料	各単位 8,400 円	20,000 円
割引制度	割引対象：①CMA、CCMA、一般会員、個人賛助会員、②法人会員・法人賛助会員の役職員 割引率：①または②のいずれかに該当すればコンピュータ試験を1割引。双方に該当すれば2割引。	なし
継続教育更新要件	2年間で15ポイント（うち職業倫理1ポイント）取得	
受験申込	当協会ウェブサイトからお申し込みください URL: https://www.saa.or.jp/pb/	

（注）プライマリーPBよりも難易度が低く、窓口第一線のスタッフ育成のための資格として、PBコーディネーター（初級）があります。その試験の実施は2022年12月に終了したため、上記の表には掲載していません。試験実施終了時点で既にPBコーディネーター資格を保有されていた方については、所定の継続教育ポイントを取得することにより引続き資格が維持されます。

3. 資格試験制度の注意点

(1) 受験の申込み

PB 資格試験には 2 つのランクの資格があり、各資格により試験科目、試験時間、受験料等が異なります。PB 資格試験の概要（4 ページ参照）をご覧ください。受験を当協会ウェブサイトからお申込み下さい。

詳しくは、協会ウェブサイト>「PB トップ」> 各資格の「受験ガイド」をご覧ください。

- ①受験資格：プライマリーPB は誰でも受験できます。シニア PB はプライマリーPB または CMA が受験資格要件となっています。
- ②試験方法：プライマリーPB はコンピュータ試験（択一式）、シニア PB は筆記試験となっています。
- ③受験料割引：受験者が、当協会の 1) CMA、CCMA、一般会員、個人賛助会員、2) 法人会員・法人賛助会員の役職員のいずれかに該当すればコンピュータ試験受験料を 1 割引、双方に該当すれば 2 割引となります。
- ④試験会場：コンピュータ試験は、全都道府県 100 か所余の会場で、年末年始、祝祭日等を除き、ほぼ毎日受験できます（会場によっては休日閉まっているところもありますので各会場にご確認下さい）。
- ⑤過去問等：過去問の公表は行っておりませんが、協会のウェブサイトに「プライマリーPB 試験（CBT）サンプル問題集」を公開していますので参照して下さい。
- ⑥筆記試験：シニア PB の筆記試験は春秋の年 2 回実施しており、「総合提案書」を自宅で作成し提出していただく方式を採用しています。「総合提案書」については、『顧客のための総合提案書の作り方』がテキストです。また、当協会ウェブサイト「総合提案書作成ガイド」を公開していますので参照して下さい。

(2) 合否判定

① コンピュータ試験（プライマリーPB）

- イ. PB 資格試験のテキストとしては、プライマリーPB 向けには『新プライベートバンキング』第 1 ～ 3 分冊があります。コンピュータ試験問題は基本的にはテキストの内容にそって出題されます。コンピュータ試験は、一定以上得点することで単位の取得が認められます。合否判定は、コンピュータ試験会場ですぐに確認できるようになっています（日曜日までに不合格となった場合、再申し込みは翌週の金曜日から可能）。なお、合格最低点は公表しておりません。
- ロ. プライマリーPB の受験は、3 つの単位に振り分けています。各単位バラバラに、あるいは試験会場によっては、1 日ですべて受験することも可能です。3 単位すべてを取得した時点で資格が認定されます。なお、取得した単位は単位ごとに管理され、有効期間は取得後 3 年間です。
- ハ. プライマリーPB は、ある単位を取得した日から 3 年以内に残りの単位を取得する必要がありますが、これができない場合には、一番有効期限の古い単位から順次 3 年間で無効になり、改めて受験し直すことになります。

（注）2023 年 3 月末時点でプライマリーPB 試験の未取得単位があり、かつ、有効期限が残っている取得済の単位がある場合には、取得済の単位は 2023 年 4 月以降のプライマリー PB 試験の同一単位として引き継がれます（有効期間も引き継がれます）。

② 筆記試験

- イ. シニア PB は、筆記試験に合格し、かつ 2 年間の実務経験を有する方が認定されます。なお、合格最低点は公表しておりません。
- ロ. 筆記試験の可否は、答案の提出が締切られた後、約 4 か月以内に発表します。受験者には採点結果および講評をメールにてフィードバックします。

(3) 資格認定に要する実務経験

シニア PB の資格認定に求められる実務経験については、以下を参考にしてください。

- ① シニア PB の場合、筆記試験に合格した上で 2 年以上の実務経験が資格認定の要件になります。
- ② 実務経験の基準は、金融機関等で、直接・間接に個人顧客や法人顧客を対象に、PB 関連業務ないしそれに準ずる業務を累計で 2 年以上営んでいた方です。これには、税理士、公認会計士、弁護士、投資顧問業、ファイナンシャルプランナー等の専門家も含まれます。
CMA は、元々 3 年以上の実務経験が必要となっていますので、この要件は既に満たされていることになります。
- ③ 上記 ② に該当しない場合でも、PB コーディネーターまたはプライマリー PB で継続教育ポイントを合計 30 ポイント取得した方は、実務経験の要件を満たしたとみなします。
- ④ シニア PB 筆記試験の問題に同封してお送りする「受験資格・実務経験に関する回答書」「筆記試験に関する宣誓書」は、必要事項を記入の上、答案提出時にあわせてご返送ください。
- ⑤ 前記の実務経験等の内容について、それを証明する書類等を求める場合があります。虚偽の申告が判明したときは、資格喪失となります。
- ⑥ 実務経験について疑問がある場合は、当協会 プライベートバンキング事務局 教育担当 (E-mail : pb@saa.or.jp) までお問い合わせください。

(4) 資格認定証

各 PB 資格試験に合格し当協会が資格認定を行った方は、協会ウェブサイトの PB 資格保有者名簿に掲載されるとともに PB 資格認定証が交付されます。

PB 資格認定者は PB 職業行為基準を十分に理解し、誠実に職務を励行し、プライベートバンカーの社会的信用および地位の向上に努めることが求められています。

(注) これまで PB 資格保有者に交付していました PB 資格認定 ID カードは、2020 年 9 月 30 日をもって交付を取り止めることと致しました (既発行の ID カードは期限までは有効です)。

4. 使用テキスト、学習教材等

プライベートバンカー（PB）資格試験で使用する基本テキストは、『新プライベートバンキング』第1～3分冊です（2023年4月以降）。このテキストは、PB業務の専門家によって書き下ろされた、PB業務に必要な広範なノウハウを盛り込んだ実践的な内容になっており、プライマリーPB向けのものです。また、シニアPBを目指す方についても、基礎的な知識の確認に活用いただける内容となっています。

また、実務において、多岐にわたる高度な知識や各分野の専門家との連携は欠かせませんが、それに加えて、顧客とのコミュニケーション・ツールとして、顧客ファミリー全体に相応しい目配りの効いた包括的な顧客にとって最適内容の提案書を作り上げるスキルも求められます。このため、シニアPB向けには、『顧客のための総合提案書の作り方』をテキストとしています。

(1) メインテキスト

① 『新プライベートバンキング』第1～3分冊

＜プライマリーPB向け＞ 第1、2分冊 3,630円、第3分冊 3,300円（税込）

（編集） 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

（発行所） ときわ総合サービス株式会社

（購入方法） ときわ総合サービス『ときわんブックストア』よりお申し込みください。

また全国書店、通販サイトでの販売も行っています。

（URL） ときわ総合サービス株式会社

<http://www.tokiwa-ss.co.jp/bookstore/index.html>

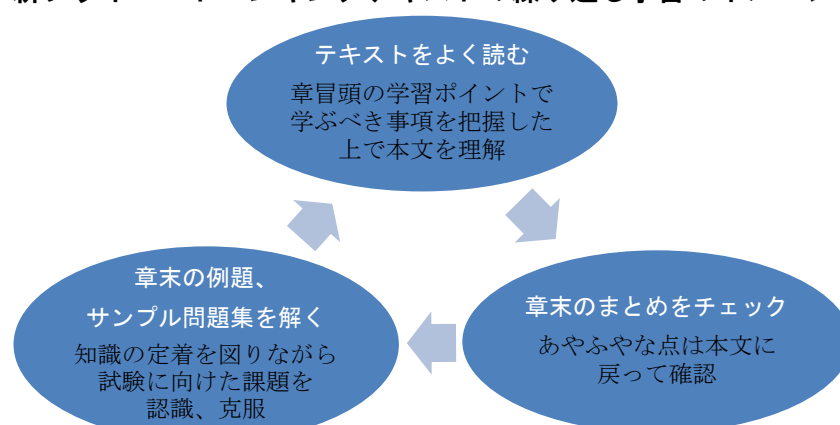
本テキストは、PBCKBに基づく4つの学習項目である「顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準」「資産の運用」「資産の承継・管理」「事業の承継」から成り立っています。

PBビジネスの現場で役立つよう実務面を重視した内容で、どの章から読み始めてもプライベートバンカーらしい考え方とPB業務を進めるうえで必須の知識を修得でき、PB資格取得をめざす方の格好の基本書となるよう編集されています。

なお、テキストは第1～第3分冊で構成されており、それぞれ試験のⅠ～Ⅲ単位と対応しています。



新プライベートバンキングテキストの繰り返し学習のイメージ



② 『顧客のための総合提案書の作り方』

＜シニア PB 向け＞ 1,980 円（税込）

（編 集） 公益社団法人 日本証券アナリスト協会

（発 行 所） ときわ総合サービス株式会社

（購入方法） ときわ総合サービス『ときわんブックストア』よりお申し込みください。

また全国書店、通販サイトでの販売も行っています。

（U R L） ときわ総合サービス株式会社

<http://www.tokiwa-ss.co.jp/bookstore/index.html>



本テキストは、当協会が主催する PB セミナーにおけるケーススタディをベースに、総合提案書の作成方法をまとめたものです。PB セミナーでは、シニア PB が実際に顧客に接する状況ができる限り再現しながら、総合提案書作成の講習を行っています。本テキストは PB セミナーで実際に使われたケーススタディを取り上げて、総合提案書の作成方法と実例を掲載しています。

(2) サブテキスト

① 「プライマリーPB 試験（CBT）サンプル問題集」（当協会ウェブサイト掲載）

＜プライマリーPB 向け＞

プライマリーPB 試験の受験者向けに「プライマリーPB 試験（CBT）サンプル問題集」を協会ウェブサイトに掲載しておりますので、是非ご活用ください（2023 年 4 月以降の試験に対応したサンプル問題集は、2023 年 3 月に協会ウェブサイトに掲載予定です）。

https://www.saa.or.jp/pb/pdf/cbt_sample_p.pdf

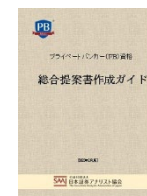


② 「総合提案書作成ガイド」（当協会ウェブサイト掲載）

＜シニア PB 向け＞

「総合提案書」とは、ファミリー全体が目指す最終的なゴール達成のために、顧客が投資に関する意思決定を行うための裏付けとなる提案書です。顧客ファミリー全体が目指す最終的なゴール達成のために、情報収集⇒現状分析⇒対策案の検討⇒モニタリングの手順で全体を見渡した結果、顧客ファミリー全体に最も相応しいと思われる解決策を助言するための提案書となります。シニア PB 筆記試験受験者向けに「総合提案書作成ガイド」を協会ウェブサイトに掲載しておりますので、是非ご活用ください。

https://www.saa.or.jp/pb/pdf/toushi_seisakusyo.pdf



(3) おすすめ学習動画、ウェブサイト、推奨図書

PB は、非常に幅広い業務で、かつ最新の知識も求められますので、以下に紹介するウェブコンテンツも参考にして学習されることをお勧めします。

① プライマリーPB 学習動画

＜プライマリーPB 向け＞

本講座は、パソコン、スマートフォン、タブレット等で学習していただく e ラーニング講座です。日本証券アナリスト協会監修の動画教材とアーティス(株)製作の演習問題で、資格取得に向けて効果的な学習が可能です(2023 年 4 月以降の試験に対応するための教材・演習問題の改定は、2023 年 6 月頃に予定されています)。

【学習教材】

- i) テキスト教材
 - ・ プライマリーPB 学習動画(約 400 分)(日本証券アナリスト協会監修)
 - ・ Web テキスト、冊子テキスト
- ii) 演習問題
 - ・ ○×問題 1,200 問
 - ・ レベルチェックテスト、模擬試験 各 1 回(共に四択、第 1～第 3 単位:計 200 問)

【製作・運営】

アーティス株式会社 <http://www.artis.co.jp>
デモ画面 <http://www.artis.co.jp/pb>
お問合せメールアドレス info89@artis.co.jp



② 「やさしい税金教室」

＜プライマリーPB 向け＞

<http://www.nichizeiren.or.jp/whats-new/p180910b/>

プライマリーPB 試験を受験する方の知識の確認用としてもお薦めです。

③ 「税金分野の基本項目」(当協会ウェブサイト掲載)

＜プライマリーPB、シニア PB 向け＞

当協会ウェブサイト > PB トップ > プライマリーPB 試験

<https://www.saa.or.jp/pb/primary/tax/index.html>

又は、当協会ウェブサイト > PB トップ > シニア PB 試験

<https://www.saa.or.jp/pb/senior/tax/index.html>

に、「税金分野の基本項目」を掲載しています。PB にとって税金分野の必須の知識を整理、理解するための参考資料です。学習の際に参照してください。

④ 国税庁ウェブサイト

国税庁のウェブサイトには、税金の学習に役立つコンテンツが掲載されています。税に関する知識を深めたい場合に、以下の国税庁ウェブサイトを随時参照してください。

1. 「税について調べる」

<http://www.nta.go.jp/taxes/shiraberu/index.htm>

2. 税務大学校の中の「税大講本」

<http://www.nta.go.jp/about/organization/ntc/kohon/index.htm>

⑤ 財務省ウェブサイト

税制改正について、詳細を知りたい時は財務省の「税制改正」で調べると便利です。必要に応じて以下の財務省のウェブサイトを参照して下さい。

「税制改正」

https://www.mof.go.jp/tax_policy/tax_reform/index.html

5. メインテキストの構成と主な学習内容

PB 資格試験のメインテキストである『新プライベートバンキング』と『顧客のための総合提案書の作り方』の構成と主な学習内容を紹介します。

(1) 『新プライベートバンキング』（第1～3分冊）

第1分冊 第1編 顧客とのかかわりと職業倫理・行為基準

1. 顧客とのかかわり
 - (1) 顧客を知る
 - (2) 円滑な顧客対応の基礎
2. FB（ファミリービジネス）の特徴とガバナンス
 - (1) FB の特徴
 - (2) FB のガバナンスとその課題
 - (3) FB のガバナンス改革
3. 職業倫理・行為基準
 - (1) 職業倫理についての考え方
 - (2) 士業や関連業種についての法令、自主規制と PB 業務
 - (3) PB 職業行為基準
 - (4) PB 資格保有者に対する懲戒

【主な学習内容】

顧客とのかかわりかたはプライベートバンカーにとって必須のノウハウです。顧客を知ることは PB 業務の第一歩であり、そのための基本スキルを身につけて、顧客の抱える問題へ対応するプロセスを学びます。また、ファミリービジネス（FB）の特徴を学び、顧客一族と FB の永続性を目指す上で重要なガバナンスの在り方を学びます。

さらに、プライベートバンカーという業務を営む上で求められる職業倫理や具体的な行動ルールないし考え方を、職業行為基準として整理し解説しています。



第1分冊 第2編 資産の運用

1. 財産状況の把握
 - (1) 保有財産の現状把握
 - (2) キャッシュフローの把握
 - (3) リスクマネジメント
2. 金融資産の運用
 - (1) 資産運用の実際

- (2) ポートフォリオ理論
- (3) 債券
- (4) 株式
- (5) 投資信託
- (6) 外国為替
- (7) デリバティブ
- (8) オルタナティブ投資

【主な学習内容】

顧客及びそのファミリーが求めるミッション、ファイナンシャルゴールを実現するための、資産運用戦略を立案、実行をサポートするプロセスを学びます。顧客の財産状況から、許容リスクを把握し運用スタンスを検討します。また、ポートフォリオ理論などの金融資産運用に関する基本的な知識を学びます。

第2分冊 第2編 資産の運用

1. 不動産の運用

- (1) 不動産投資の特徴
- (2) 土地の有効活用
- (3) 収益不動産の取得
- (4) 投資判断指標
- (5) ファイナンス



【主な学習内容】

不動産の基本的な性格から、不動産投資の基本である収支計画の策定・分析方法、投資判断、投資指標の見方、ファイナンスの考え方などを学びます。不動産は金融商品と類似性がある一方で、個別物件による差が大きく、金融商品とは異なる部分も多くあります。

第2分冊 第3編 資産の承継・管理

1. 相続の法務

- (1) 相続の概要
- (2) 遺産分割協議
- (3) 遺言

2. 相続の税務

- (1) 相続税の概要
- (2) 贈与税の概要

3. 納税資金対策

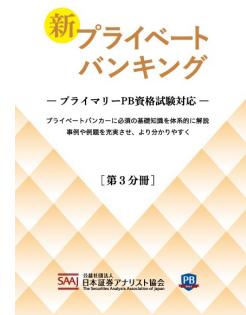
- (1) 想定納税額の確認
- (2) 納税資金の準備
- 4. 信託を活用した資産の管理と成年後見制度
 - (1) 信託の概要
 - (2) 信託に関する税務
 - (3) 信託における金融機関の関与
 - (4) 信託契約の事例
 - (5) 成年後見等

【主な学習内容】

相続について法務と税務について基本的な事項や、納税資金対策の策定についての基本的な考え方について学習します。また、資産の承継・管理について有効な信託の活用方法について、具体的な事例をもとに学びます。ファミリーの資産を次世代に承継するために、顧客の直面する課題に対処する方法を学びます。

第3分冊 第4編 事業の承継

- 1. 事業価値源泉の把握と企業価値評価
 - (1) 事業価値源泉の把握
 - (2) 企業価値評価
- 2. 事業の承継（親族内）
 - (1) 事業承継の方法と検討手順
 - (2) 自社株式評価の体系
 - (3) 自己株式の取得・処分
 - (4) 持株会社スキーム
 - (5) その他の主要な対策
- 3. 事業の承継（親族外）
 - (1) MBO への対応
 - (2) M&A への対応



【主な学習内容】

顧客の富の源泉でもある事業について、その事業をよりよくして次世代へ継承することが顧客の重要な課題です。事業の現状を把握・分析し、事業価値を高めていくためのイノベーション、後継者の育成方法などについて学びます。また、企業価値評価の理論と、実践での活用方法について解説しています。事業の承継に関する、基本的な知識を学び、親族内・親族外の承継に対応するスキルを身につけます。

(2) 『顧客のための総合提案書の作り方』



第1章 はじめに

1. 市場としての魅力
2. ファミリービジネスを対象とする法・個一体営業アプローチ
3. 生涯現役の仕事となり得る PB ビジネス
4. 自らの資源を棚卸し明確な顧客ターゲットを持つ

【主な学習内容】

何故、今 PB ビジネスが必要とされているのか、魅力あるキャリアの可能性を秘めた PB 業務とはどのようなものか等、日本証券アナリスト協会の米田隆 PB 教育委員会委員長が、生涯現役のキャリアとしての PB ビジネスについて解説します。

第2章 総合提案書とは？

1. 総合提案書とは
2. 総合提案書の構成
3. 全体の構成と必要な知識
4. 作成の手引き
5. 総合提案書のチェックポイント

【主な学習内容】

総合提案書は、顧客ファミリー全体が目指す最終的なゴール達成のために、最も顧客ファミリーに相応しいと思われる解決策を助言するための提案書です。ここでは総合提案書を作成する上でのポイントや全体の構成、必要とされる知識体系について学びます。

第3章 ケーススタディ

1. 「スーパー今中」～新事業承継税制を踏まえた企業価値経営と資産運用
2. 「I&I」～IPO も可能な IT 企業経営者
3. 「赤門アカデミー」～同族内に後継者のいない事業承継

【主な学習内容】

ここで取り上げるケーススタディは、日本証券アナリスト協会が主催した PB セミナーで実際に使われたものであり、課題とケース、および解答例を基に、具体的な総合提案書の作成方法を学びます。

第4章 まとめに代えて

1. ファミリービジネス一族こそがプライベートバンキングの中核顧客
2. ファミリービジネスをめぐる事業環境変化～Lの二極化と業界再編～
3. ファミリー企業をどのように分別し評価するか
4. 一族の絆を強める資産運用のあり方
5. ケース分析の切り口

【主な学習内容】

PB業務の中核顧客をファミリービジネス一族として、ファミリービジネスの評価手法やそれを取り巻く事業環境の変化、一族のファミリービジネスへの関わり方などについて、日本証券アナリスト協会の米田隆 PB教育委員会委員長が解説します。

6. おわりに

(1) 職業倫理の重要性

プライベートバンカーは顧客であるオーナー経営者の懐の奥深く入り込んで長期間、場合によっては幾世代にもわたって顧客であるオーナー経営者とその家族の為に仕事を続けていきます。顧客のあらゆる事情によく通じており、また、顧客から厚い信頼を寄せられて成り立つ職業です。

そのため、プライベートバンカーは顧客である個人やその家族の信頼に応えて、顧客の利益のために専門的能力をフルに発揮して最大限の努力をしなければなりません。その際、その分野の専門的知識・情報量で顧客に対し圧倒的な優位にあることに乗じて自己の利益を図るといったようなことは決して許されません。そのため、プライベートバンカーには強い自己抑制が求められるとともに、単なる契約上の義務を超えて顧客のために自発的に最善を尽くすことが求められています。

プライベートバンカーは、職業倫理を知識として身に付けるだけでなく、その心、精神を理解した上で日々の業務を進めていくことが求められているといえます。

(2) より良いプライベートバンカーを目指して

当協会の PB 教育プログラム、資格試験制度は、かなり幅広いものとなっていますが、それでもこれらは PB としては最低限の基礎的なものに留まっているといえます。従って、PB を目指す方々にとっては「不断の学習」が欠かせません。当協会が実施している PB 関連の各種セミナーやスクールの動画・要旨録による継続学習の大切さを今一度確認してください。

金融機関にお勤めの方々にとっては、定期的な人事異動があり顧客との良好な関係が築けない、各種の業法や資格の制約があり活動が制限されるといった問題があることも承知しています。しかし、まずはここでの学習を済ませ、実践の場において、例えば、チームを組む、ネットワークを作るといった工夫も混じえつつ、応用動作に入っていく必要があります。ここでの学習は、そうした実践の場でも役に立つことでしょう。

この教育プログラムは、実践的な知識やノウハウ、考え方を身につけていくことを主たる目的としていますが、ここでの学習は必要条件であって十分条件ではありません。何よりも大切なのは、顧客の立場に立って、総合的かつ中長期的なサービスを提供していくことです。PB に求められるのは「部分最適ではなく顧客にとっての全体最適」なのです。これは職業倫理のキーワードである「Fiduciary Duty」にもつながるとともに、「自社の金融商品の売込みが多い」とか「手数料稼ぎが目的だ」といった顧客の批判に応えることにもなります。

この PB 教育プログラムはわが国初の試みであり、協会としては、内外の環境も時代も変わっていく中で、随時プログラムの一層の充実、手直しを進めていくつもりです。皆さんが自らを高めつつ、このプログラムで得たものを実践の場で最大限に活かし、顧客の満足度を高め、ひいては日本経済の活性化に貢献していかれるよう願っています。





プライベートバンカー（PB）資格 新スタディガイド

編集兼発行
公益社団法人 日本証券アナリスト協会
〒103-0026 東京都中央区日本橋兜町2-1
東京証券取引所ビル5階